

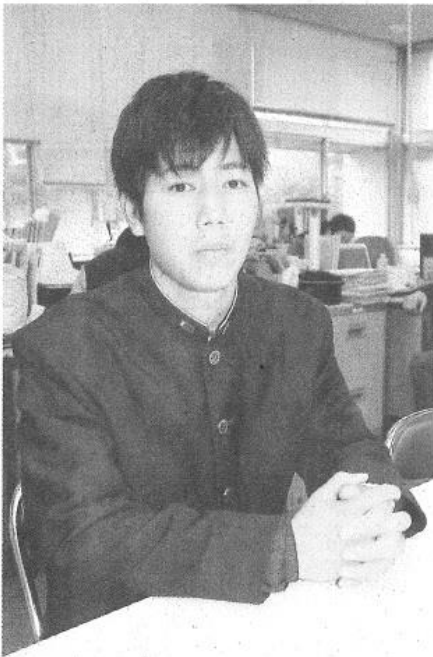
父の死越え「農業の先生に」

あざざり町の南稜高3年、宮良耀一さんが東日本大震災を機に創設された給付型の奨学金「ピヨンドトゥモロー」に県内で初めて選ばれた。今春、大学に進む宮良さんは「私も人にチャンスを与えられる人間になりたい」と張り切っている。同奨学金は東京の一般財団法人が運営。これまでは同震災で家族を失った東北地方の学生らを対象としてきたが、今回から「経済的に困難な状況にある若い世代を応援する」として全国に広げた。宮良さんは幼いころに両親が離婚して祖父母に

大震災で創設の奨学金が後押し

育てられ、父親が一昨年に急逝。南稜高では馬術部主将として活躍し、県の「がんばる高校生」表彰も受けた。宮崎大農学部への進学が決まっている。同奨学金は1年間72万円のほか、人材育成プログラムも受けられる。全国から約700人が応募し、約20人が選ばれた。高校の教員を務める祖父と同じ道に進むのが目標という宮良さんは「多くの経験をjして成長し、農業の教員になって強い思いを持った人材を育てたい」と気持ちを膨らませている。(内海正樹)

南稜高3年 宮良耀一さん



東日本大震災を機に創設された奨学金に、県内で初めて選ばれた南稜高の宮良耀一さん(あざざり町)